

2023年度

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH362
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 5
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	小黒 正幸 (医療科学部), 戸部 悠紀 (医療科学部), 柳井 徹哉 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この講義では、体幹部の骨折・脱臼・筋腱軟部組織損傷について実習を通して教授する。各損傷における特徴・症状・鑑別診断・整復法・固定法・予後などについて学習する。さらに、脊椎は危険症と禁忌症が混在する部位であり、慎重な対応が必要とされることを理解する。肋骨骨折では、発生機序・症状・鑑別診断・整復の有無・固定法などについての実技実習を行う。応急処置等、現場で行動ができるようにする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員 小黒正幸 元大学附属接骨院院長 整形外科勤務 柔道整復師 戸部悠紀 元大学附属接骨院院長 柔道整復師 柳井徹哉 現接骨院院長 柔道整復師
到達目標	カリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の技術を学び、実践力を養う」および「総合的な能力を養う」ことが実現するよう、柔道整復学分野の臨床的な知識・技術を身につける。 具体的には、脊椎の骨折および脱臼では画像による理解も必要とするため整形外科や救急法等の知識も必要となる。筋腱軟部組織損傷では柔道整復における治療法の独自性を理解し実践できることを目標とする。
計画・内容	1-2) ガイダンス、基本包帯法、冠名包帯法 小黒、戸部、柳井 3-4) 部位別包帯法 小黒、戸部、柳井 5-6) 頭部・顔面部骨折 小黒、戸部、柳井 7-8) 顎関節脱臼 小黒、戸部、柳井 9-10) 頭部・顔面部軟部組織損傷 小黒、戸部、柳井 11-12) 胸部 (肋骨骨折) 小黒、戸部、柳井 13-14) 胸部 (胸部軟部組織損傷) 小黒、戸部、柳井 15-16) 脊椎部 頸椎骨折 小黒、戸部、柳井 17-18) 脊椎部 : 胸椎・腰椎骨折 小黒、戸部、柳井 19-20) 脊椎部 頸椎脱臼骨折 小黒、戸部、柳井 21-22) 脊椎部 胸椎脱臼骨折 小黒、戸部、柳井 23-24) 脊椎部 頸部捻挫 小黒、戸部、柳井 25-26) 脊椎部 背部腰部軟部組織損傷 小黒、戸部、柳井 27-28) 実技試験 小黒、戸部、柳井 29-30) 実技試験 小黒、戸部、柳井
授業の進め方	教科書に沿って行う。また、必要に応じて資料の配布を行う。脊椎の骨折・脱臼は、禁忌症として慎重な対応が必要とされる重大な損傷であることを認識し、柔道整復師の施術範囲を守ることが重要である。軟部組織損傷では、頸部捻挫・腰部捻挫として臨床の現場で比較的多く遭遇する疾患であり、診断から治療へ一定の流れを会得することが課題となる。 少人数教育も取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
能動的な学びの実施	実技実習では2名もしくは3名1組でお互いに整復や固定を行うことで技術の修得を図る。 また、実習内容によってはグループに分かれグループ毎に評価表を基に評価を行い、ディスカッションを通して問題点や課題を理解する。

2023年度

授業時間外の学修	<p>授業時間外学習（合計60時間程度）</p> <p>予習：講義予定の部位について教科書・参考書を参照し、キーワードに関して基本的な理解を得ておくこと。</p> <p>復習：実習で得た知識をノートなどにまとめる。また、実習で得た技術は反復練習を行い技術向上を図る。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：</p> <p>「柔道整復学・理論編 改訂第6版および第7版 公益社団法人全国柔道整復学校協会・教科書委員会編 南江堂」</p> <p>「柔道整復学・実技編 改訂第2版 公益社団法人全国柔道整復学校協会・教科書委員会編 南江堂」</p> <p>「包帯固定学 改訂第2版 公益社団法人全国柔道整復学校協会・教科書委員会編 南江堂」</p>
成績評価方法と基準	<p>期末実技試験（80%）+ 課題・レポート（20%）</p>
課題等に対するフィードバック	<p>各学生の進捗状況の確認の都度、コメントを行う。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>実技の進行状況により内容が変更される場合もあるため、その際は事前に連絡をする。授業内だけでの技術向上は難しいため、個人またはグループでの練習を重ねて技術向上を目指す必要がある。</p> <p>医療従事者にふさわしい服装、頭髪等、身だしなみを整えて受講すること。</p> <p>授業を妨げる場合は、退室とする場合がある。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <p>zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。</p> <p>成績評価方法と基準</p> <p>オンラインによる試験もしくは授業中課題（50%）と期末レポート（50%）で評価する。</p>